

「おうい、はるかぜ。おきなさい。」

□お日さまに おいされて、はるかぜは、どうしましたか。あてはまるいじに
○をつけましょう。

大きなあくび

大きくくしゃみ

大きなおなら

□「や、お日さま。や、みんな。おまちとお。」を はるかぜになって 読んで
みましょう。むね いっぱいに いきをすって、ふうっと いきはきまじ
よう。

□かおを出して「こんにちは。」 といったのは、 だれでしょう。

だれ

2.「ぶきのとう」(教科書十四ページから二十二ページ)をくふうして読んでみましょう。

○音読をするときには、つぎのことに 気をつけます。

・しせい

・口の あけかた

・こえの 大きさ

・読む はやさ

○音読で、くふうしたいことを 書きましょう。

こたえ

ことばをタンテイしてみよう

1. 「ぶきのとう」(教科書十四ページ)を読んで、書きましよう。

□お話の中に出てきたへじんぶつ

・ 竹やぶの 竹のはっぱたち

・ 雪(ゆき)

・ (竹やぶのそばの) ぶきのとう

・ 竹やぶ

・ おひさま

・ はるかげ

□竹やぶの 竹のはっぱたちの会話を^{かいわ}読んでみましょう。

読み方のヒントになる言葉が□□にかくれています。みつけてみましょう。

「さむかったね。」

「うん、さむかったね。」

と われわれは います。

雪が まだ すくしのうって、

あたりは しんと しています。

□「よいしょ、よいしょ。おもたいな。」といったのは、だれですか。

竹やぶの そばの

ぶきのとう

□どんな こえ ですか。どこにいますか。

こえ 小な(こわな)

ふいごの

木の

□ふきのとうが ふんばっているように 読んでみましょう。

読み方のヒント おふんなどを じぶんの上にかぶせて、もち上げながら読んでみよう。

「よいしょ、よいしょ。おもたいな。」

「よいしょ、よいしょ。そとが 見たいな。」

□雪や竹やぶは どんなきもちでしょう。□に書きましょう。

雪「こめんね。」 きもち

きんねんそう

竹やぶ「すまない。」 きもち

きんねんそう

□空の上の お日さまは どんな ようす ですか。あてはまる ようすに
○をつけましょう。

じまっている

かなしんでいる

わらっている

□お日さまのようすになって、読んでみましょう。

「おや、はるかげが ねぼうして いるな。竹やぶも 雪も ふきのとうも、
みんなじまって いるな。」

「おうい、はるかげ。おきなをこ。」

□お日さまに おいわれて、はるかげは、どうしましたか。あてはまるように
○をつけましょう。

大きなあくび

大きくくしゃみ

大きなおなら

□「や、お日さま。や、みんな。おまちとお。」を はるかげになって 読んで
みましよう。むね いっぱいに いきをすって、ふつと いきはましま
よう。

□かおを出して「こんにちは。」 といったのは、 だれでしょう。

だれ
ふきのとう

*読み方によつては、ほかのじんぶつにもなるね。

2.「ふきのとう」(教科書十四ページから二十二ページ)をくふうして読んでみましよう。

○音読をするときは、しぎのうに 気をつけます。

- | | |
|----------|----------|
| ・しせい | ・口の あけかた |
| ・こえの 大きさ | ・読む はやさ |

○音読で、くふうしたいことを 書きましよう。

ふきのとうが、ちからをいめて ふんばっているように読みまし
た。雪と竹やぶは、やわつといえど、ぜんぜんそうに読みました。